

地上
地下

一藤 野宮 一藤 大宮 一清 伏原 一藤 押小路 一藤 裏松

一藤 勘解由小路 一源 梅溪 一藤 池尻 一藤 武者小路 一藤 桂

一源 田向 一藤 山本 一藤 交野 一藤 蘭池 一藤 芝山

一平 長谷 一藤 町尻 一菅 若江 一源 龜谷 一源 葛岡

一源 愛宕 一藤 町口 一藤 滋岡 一藤 風早 一源 東久世

一源 小澤 一源 佐々木 一藤 中川 一藤 細野 已上二十九家

〔光臺一覽三〕諸家之中、平と申衆中は、花園園橋本、三條園池、同外山、日野星岡、同池尻、勤修寺、芝山、同穗

波、同岡崎、同堤、同今城、同石山、同六角、同高野、同岩野、同七條、同町尻、同櫻井、同壬生、同中園、同高岡、同

藤谷、同梅園、同樋口、同堀川、同裏辻、同岩倉、同愛宕、同小倉、同久世、同梅溪、同植松、同五辻、同源竹内、

同大宮、同大原、同錦織、同源澤、同藪、同東久世、同武者小路、同梅小路、同西大路、同水無瀬、同園山

野井、同冷泉上、同冷泉下、同富小路、同綾小路、同藤井、同八條、同高橋、同高橋、同藤原源家

の庶流家筋に依て役も無之故、平と申なり、此五十軒の昇進は、つよきは從五位下侍從より中少

將を申散三位にて宰相の缺を待、大中納言にも任じ、正二位申家も有、これは此中の第一なり、次

は右のごとく任じて、中納言極老に正二位に叙し、病重之砌、中納言を辭し、大納言に任じ、病氣急

とて翌日辭退して、前大納言となり、明後日逝去の披露あり、是此中の第二の格なり、第三は、中納

言至極に正二位申て果る家、第四、宰相にて極に從二位申なり、又第二の格の大納言の通りに中

納言を申格なり、是等皆堂上にて通言に、三日之大納言、三日之中納言等といへり、其餘は三位つ

まりなり、

〔山田落穂〕昇殿并地下堂上の事

昇殿は清涼殿の殿上をゆるさるゝをいふ、古は今の堂上のごとく、代々家つきにて昇殿するこ